

新聞活用による情報リテラシーを育む教育の実践

～普通科・看護科の特色を生かし、社会に貢献できる人材育成をめざして～

加茂暁星高等学校

1 学校の概要

普通科，看護科の2学科による編成である。大正9年に加茂朝学校として加茂町大昌寺内に設立され，昭和37年に加茂暁星高等学校全日制普通科を設置した。その後，全日制衛生看護科を設置し，現在では全校556名の生徒が勉学に励んでいる。本校の教育目標は，「徳育・知育・体育において，仏教精神にもとづく人間形成，高校生としての確かな学力の向上，心身ともに健やかな体づくりを目指す」である。特に時代の急速な変化に伴う知識基盤社会における大学等への進学率の向上，情報化，国際化，高齢化時代の対応を踏まえて，幅広い教育課程を採用していることが特徴である。また，短大・大学を併設する私学としての特色を発揮している。

2 NIE実践のねらい

国内外への視野拡大，スポーツや看護の精神の醸成といった目的に沿い，新聞を通して社会情勢や時代の動きを理解させたい。特に社会情勢が目まぐるしく変化している昨今において，さまざまな情報から取捨選択を迫られている中で，生徒一人ひとりに読解力，分析力，判断力などを持たせたい。テーマを設定し協働的に学習する機会を与えたり，主体的に思考する環境を与えたりすることで問題解決能力を育み，進学や就職に興味・関心を高めるきっかけにも情報の宝庫である新聞を活用したい。

○ 生徒に身につけさせたい能力

① 視野を拡張し，自身の考えを深化させることができる能力

(ア)さまざまな情報から多面的な捉え方ができる

(イ)問題を発見し，国内外から適した解決方法を選択し，応用できる

② 読解力，分析力，判断力

(ア)社会の人々がどのように考えているかを読み取ることができる

(イ)スポーツや看護の精神を汲み取り，自分の生活に生かすことができる

③ 自身の考えを表現できる能力

(ア)レポート作成ができる

(イ)協働的学習において意見を発信できる

(ウ)論理立ててプレゼンテーションできる

3 実践概要

平成 28 年	担当	活動内容
6 月	企画広報部	担当者向け会議 (アドバイザー NIE 事務局 土屋 修 様)
7 月		第 23 回 新聞記事感想文コンクール (夏季休業中課題) *1 名 佳作
9 月		新聞制作学習
		NIE コーナー設置
10 月 27 日	NIE 担当	NIE 実践研究発表会 (新潟県立新潟商業高等学校)
12 月 2 日	NIE 担当	NIE 実践研究発表会 (新潟市立新津第一小学校)
12 月 14 日	実践授業担当	実践授業 (アドバイザー 新潟市立矢代田小学校 教頭 古井丸裕三 様)
12 月 26 日	NIE 担当	教職員向け NIE 説明会

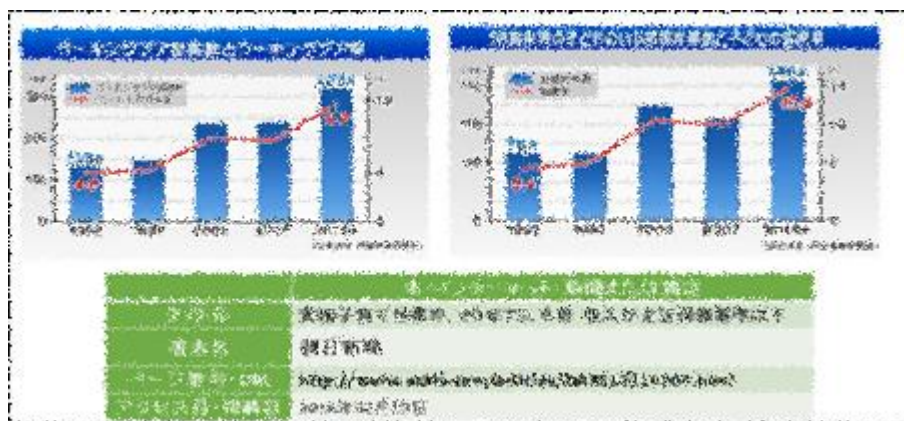
平成 28 年度から新潟県新聞活用教育(NIE)の指定となり、おもに企画広報部教職員が新聞を活用，実践した。9 月からの新聞購読に合わせ，NIE コーナーを設置した。全生徒が通行する生徒玄関前に置くことで身近に感じられるようにした。また，探究コースであれば国際，スポーツコースならばスポーツ面，看護科では介護・福祉面など興味・関心を惹く紙面を開いて置いた。足を止めて新聞を読む生徒の姿も見られた。第 23 回新聞記事感想文コンクールでは夏季休業前に課題を提示し，興味・関心のある記事の読解指導を行い，理解を深めさせた。また，新聞制作学習では NIE 担当者が看護科において，それぞれのテーマ(学童期，胎児期など)で記事のデータや図を用いたりすることにより授業内容をさらに深めさせた。この学習では 4~5 人グループを編成して役割分担することで収集した情報を共有，分析し協働的に新聞を制作した。



AD: A decrease in the poverty rate.

Observation

Working-poor households are those who earn money from working, but whose income is less than what a household on welfare receives. According to Tomuro Kensaku, an associate professor of Yamagata university calculated the number of working-poor households with children under 18 doubled from 0.7 million in 1992 to 1.46 million in 2012. Japan's child poverty rate went up from 5.4% to 13.8% during the same period. Japan's poverty rate of children with single parent is the worst among OECD nations



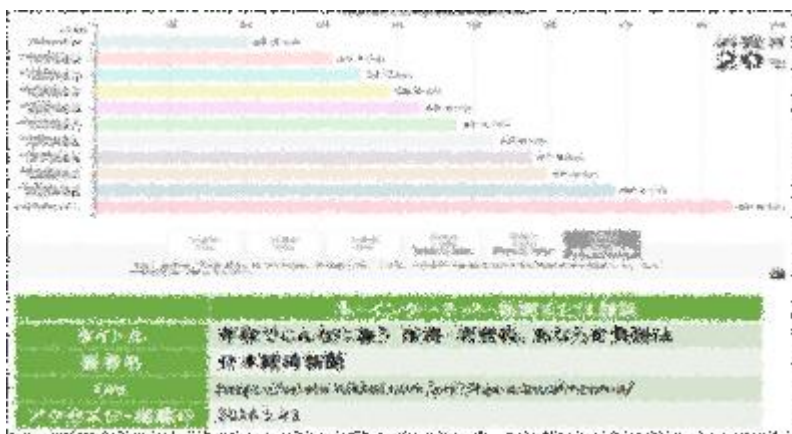
朝日新聞
2016.02.16

否定側からの対論 消費税の増税は貧困層への負担増

肯定側の BI 導入では消費税を少なくとも 20%以上にする必要があります。消費税の増税は、貧困層により大きな負担増になり格差がますます広がります。2016年2月23日の日経新聞「年収でこんなに違う 所得・消費税、あなたの負担は」という記事によると、消費税が 20%であると所得が 200 万円以下の貧困世帯の場合は、所得のうち 16.3%を消費税に取られてしまいます。一方 550 万円の所得の家庭では、この割合が 7.8%に過ぎません。16.3% 対 7.8%です！このように BI は所得格差を悪化させることとなります。

Raised consumption tax would be a burden on the poor

Their AD has no effect. They said they would have to raise the consumption tax to 25%. According to the Nihon Keizai Shinbun's tax simulation site, suppose the tax is 20%, the poor with less than 2 million yen income would have to spend 16.3% of their income on the consumption tax. On the other hand, for the average household with the annual income of 5.5 million yen, the rate would be only 7.8%. 16.3% versus 7.8%! Thus BI would widen the gap between the rich and the poor and worsen social disparities.



日本経済新聞
2016.02.23

Question (英語)	Answer (英語)	Question (英語)	Answer (英語)	Question (英語)	Answer (英語)
1. 海外労働に関する質問 海外労働者に対する待遇が、国内労働者と同等であることが重要です。海外労働者の待遇を向上させるための施策は、政府からどのように実施されるのでしょうか？	1. 海外労働者に対する待遇向上策について、政府は国内労働者と同様の待遇を確保することを重視しています。海外労働者の待遇向上策として、政府は海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。また、海外労働者の労働条件を向上させるための施策として、海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。	2. 海外労働者に対する待遇向上策について、政府は国内労働者と同様の待遇を確保することを重視しています。海外労働者の待遇向上策として、政府は海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。また、海外労働者の労働条件を向上させるための施策として、海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。	2. 海外労働者に対する待遇向上策について、政府は国内労働者と同様の待遇を確保することを重視しています。海外労働者の待遇向上策として、政府は海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。また、海外労働者の労働条件を向上させるための施策として、海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。	3. 海外労働者に対する待遇向上策について、政府は国内労働者と同様の待遇を確保することを重視しています。海外労働者の待遇向上策として、政府は海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。また、海外労働者の労働条件を向上させるための施策として、海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。	3. 海外労働者に対する待遇向上策について、政府は国内労働者と同様の待遇を確保することを重視しています。海外労働者の待遇向上策として、政府は海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。また、海外労働者の労働条件を向上させるための施策として、海外労働者の労働条件の改善や、海外労働者の権利の保護に取り組んでいます。

ワークシート一部抜粋



5 成果と課題

(1) NIE コーナーの設置

生徒玄関前に6紙の新聞を置き、生徒の目に触れさせることで新聞への関心は高まった。また、設置するだけではなく、スポーツクラスや看護科など多岐にわたる生徒が混在する中で興味・関心の高い紙面を開いておくことで、より目にする機会を増やすことができた。現在は読むことだけに留まり、記事その

ものをスクラップにするなどの集積を行っていない。同内容の記事を追跡調査、他紙との比較調査などを行える環境を整備したい。

(2)実践

①新聞記事感想文コンクール

長期休業前に課題を提示し、看護に関わることというテーマに対して、いくつかの記事を読み込ませることができた。興味のある記事を読み読解することで自身の考えに組み込ませた。また、作成した文章と使用した記事を再度比較することで新たな気付きを見つけ、自身で文章を推敲できたことは大きい収穫である。今回はクラスを3学年看護科2クラスと1学年看護科1クラスという限定的に行った活動であり、全体に拡げていきたい。また、テーマに対し1つの新聞記事を用いた活動であり、類似記事を探して比較・分析を行いたい。その結果、テーマに対する記事選択でなぜ選んだのかという判断力を養いたい。

②新聞制作学習

2学年看護科2クラスにおいて看護の授業に関連付け、各グループで協働的に学習ができた。教科書には掲載されていない図や表といったデータを読み込み分析し、新聞という形で自身らの考えを表現できた。学童期や胎児期といったテーマに沿い、調べ学習を行ううえで主体的に活動する様子が見られ、教科学習の幅を拡げられた。今後は文章の表現に主観・客観の違いに注視しながら、内容の高いものを作成させ、実習などにおけるレポートにその能力を反映させたい。

③英語ディベート教育での新聞記事の活用

肯定・否定に分かれ、新聞記事を用いて自身が属するグループの根拠とした。情報を読み込むこと、また相手が提示した根拠を崩すためにその情報の分析・判断を行うことができた。英語と日本語の両言語で進行したことでグループ外の事前学習内容を知らない生徒でも対応できた。ディベートでは根拠となる情報の読解、分析、判断、そして意見を述べるという形で表現まで一括で行えた。肯定・否定側それぞれの意見を互いに分析しあうことでその問題に対し、理解を深められた。今後は1つのテーマに対象生徒すべてを少人数のグループにし、肯定・否定それぞれの立場を経験させることで思考を深化させたい。また情報が紙面のみに限定してしまうと収集に時間を要してしまうため、インターネットや新聞各社で扱っている電子版も併用したい。

(3)その他

NIE 実践校となる以前に新聞の活用という点で長期休業中の課題に新聞記事スクラップを行ったクラスもある。主な目的として小論文に対応させたり、文章がどのように構成されているか思案させたりした。ただし、クラス運営の域から出ておらず、担任主導の部分が大きい。これを目的の明確化、指導、振り返りなどシステム構築を行い、学校全体として取り組んでいきたい。